校異源氏物語・夢のうきはし

やまにおはしてれいせさせ給やうに経仏なとくやうせさせ給又の日はよかはにおはしたれはそうつおとろきかしこまりきこえ給としころ御いのりなとつけかたらひたまひけれとことにいとしたしきことはなかりけるをこのたひ一品の宮の御心ちのほとにさふらひ給へるにすくれたまへるけん物し給けりとみたまひてよりこよなうたうとひたまひていますこしふかきちきりくはへ給てけれはおも　くしくおはするとのゝかくわさとおはしましたることゝもてさはきゝこえ給御物かたりなとこまやかにしておはすれは御ゆつけなとまいり給すこし人

　くしつまりぬるにをのゝわたりにしり給へるやとりや侍とゝひ給へはしか侍いとことやうなるところになんなにかしかはゝなるくちあまの侍を京にはか

　くしからぬすみかもはへらぬうちにかくてこもり侍あひたは夜中あか月にもあひとふらはんとおもひたまへをきて侍なと申給そのわたりにはたゝちかきころをひまて人おほうすみ侍けるをいまはいとかすかにこそなりゆくめれなとの給ていますこしちかうゐよりてしのひやかにいとうきたる心ちもしはへる又たつねきこえんにつけてはいかなりけることにかと心えすおほされぬへきにかた

　くはゝかられ侍れとかの山さとにしるへき人のかくろへて侍るやうにきゝ侍しをたしかにこそはいかなるさまにてなともゝらしきこえめなとおもひたまふるほとに御てしになりていむことなとさつけ給てけりときゝ侍れはまことかまたとしもわかくおやなともありし人なれはこゝにうしなひたるやうにかことかくる人なん侍をなとの給そうつされはよたゝ人とみえさりし人のさまそかしかくまての給はかろ　くしくはおほされさりける人にこそあめれとおもふにほうしといひなから心もなくたちまちにかたちをやつしてけることゝむねつふれていらへきこえんやうおもひまはさるたしかにきゝ給へるにこそあめれかはかり心え給てうかゝひたつねたまはんにかくれあるへきことにもあらす中　くあらかひかくさんにあいなかるへしなとゝはかり思えていかなることにか侍けんこの月ころうち　くにあやしみおもふたまふる人の御ことにやとてかしこに侍あまとものはつせにくわん侍てまうてゝかへりけるみちにうちの院といふ所にとゝまりて侍けるにはゝのあまのらうけにわかにおこりていたくなんわつらふと

つけに人のまうてきたりしかはまかりむかひたりしにもまつあやしきことなんとさゝめきておやのしにかへるをはさしをきてもてあつかひなけきてなん侍りしこの人もなくなりたまへるさまなからさすかにいきかよひておはしけれはむかし物かたりにたまとのにをきたりけん人のたとひをおもひいてゝさやうなることにやとめつらしかり侍て弟子はらの中にけんある物ともをよひよせつゝかはり　くにかちせさせなとなんし侍けるなにかしはおしむへきよはひならねとはゝのたひのそらにてやまひをもきをたすけて念仏をも心みたれすせさせんとほとけをねんしたてまつりおもふ給へしほとにその人のありさまくはしくもみたまへすなん侍しことの心をしはかり思たまふるにてんくこたまなとやうの物ゝあさむきいてたてまつりたりけるにやとなんうけたまはりしたすけて京にゐてたてまつりてのちも三月はかりはなき人にてなんものしたまひけるをなにかしかいもうとこゐもんのかみのきたのかたにて侍しかあまになりて侍なんひとりもちて侍し女こをうしなひてのち月日はおほくへたて侍しかとかなしひたえすなけきおもひ給へ侍におなしとしのほとゝみゆる人のかくかたちいとうるわしくきよらなるをみいてたてまつりてくわんをんのたまへるとよろこひおもひてこの人いたつらになしたてまつらしとまとひいられてなく　くいみしきことゝもを申されしかはのちになんかのさかもとに身つからおり侍りてこしむなとつかまつりしにやう　くいきいてゝ人となりたまへりけれと猶このらうしたりける物の身にはなれぬ心ちなんするこのあしきものさまたけをのかれてのちのよをおもはんなとかなしけにのたまふことゝものはへしかはほうしにてはすゝめも申つへきことにこそはとてまことにすけせしめたてまつりてしに侍さらにしろしめすへきことゝはいかてかはそらにさとり侍らむめつらしきことのさまにもあるをよかたりにもし侍ぬへかりしかときこえありてわつらはしかるへきことにもこそとこのおい人とものとかく申てこの月ころをとなくて侍つるになと申たまへはさてこそあなれとほのきゝてかくまてもとひいてたまへることなれとむけになき人とおもひはてにし人をさはまことにあるにこそはとおほすほとゆめの心ちしてあさましけれはつゝみもあへすなみたくまれ給ひぬるをそうつのはつかしけなるにかくまてみゆへきことかはとおもひかへしてつれなくもてなしたまへとかくおほしけることをこの世にはなき人とおなしやうになしたることゝゝあやまちしたる心ちしてつみふかけれはあしきものにらうせられ給けんもさるへきさきのよのちきりなりおもふにたかきいゐのこにこそものし給けめいかなるあやまりにてかくまてはふれ給けんにかとゝひ申給へはなまわかむ

とほりなといふへきすちにやありけんこゝにもゝとよりわさとおもひしことにも侍らす物はかなくてみつけそめて侍しかと又いとかくまておちあふるへきゝはとは思たまへさりしをめつらかにあともなくきえうせにしかは身をなけたるにやなとさま　くにうたかひおほくてたしかなることはえきゝ侍らさりつるになんつみかろめて物すなれはいとよしと心やすくなん身つからはおもひ給へなりぬるをはゝなる人なんいみしくこひかなしふなるをかくなんきゝいてたるとつけしらせまほしくはへれと月ころかくさせ給けるほいたかふやうにものさはかしくや侍らむおやこの中のおもひたえすかなしひにたへてとふらひものしなとし侍なんかしなとのたまひてさていとひんなきしるへとはおほすともかのさかもとにおりたまへかはかりきゝてなのめにおもひすくすへくは思ひ侍らさりし人なるをゆめのやうなることゝもゝいまたにかたりあはせんとなんおもひたまふるとの給けしきいとあはれと思たまへれはかたちをかへよをそむきにきとおほえたれとかみひけをそりたるほうしたにあやしき心はうせぬもあなりまして女の御身はいかゝあらんいとおしくつみえぬへきわさにもあるへきかなとあちきなく心みたれぬまかりおりむことけふあすはさはり侍月たちてのほとに御せうそこを申させ侍らんと申給いと心もとなけれと猶ゝとうちつけにいられんもさまあしけれはさらはとてかへり給かのせうとのわらは御ともにゐておはしたりけりことはらからともよりはかたちもきよけなるをよひいて給てこれなんその人のちかきゆかりなるをこれをかつ　く物せん御ふみひとくたり給へその人とはなくてたゝたつねきこゆるひとなんあるとはかりの心をしらせ給へとのたまへはなにかしこのしるへにてかならすつみえ侍なんことのありさまくはしくとり申ついまは御身つからたちよらせ給てあるへからむことはものせさせ給はんになにのとかゝ侍らむと申給へはうちわらひてつみえぬへきしるへとおもひなし給らんこそはつかしけれこゝにはそくのかたちにていまゝてすくすなんいとあやしきいはけなかりしよりおもふ心さしふかく侍を三条の宮の心ほそけにてたのもしけなき身ひとつをよすかにおほしたるかさりかたきほたしにおほえはへりてかゝつらひ侍つるほとにをのつからくらひなといふ事もたかくなり身のをきても心にかなひかたくなとしておもひなからすき侍には又えさらぬこともかすのみそひつゝすくせとおほやけわたくしにのかれかたきことにつけてこそさも侍さらめさらてはほとけのせいし給かたのことをわつかにもきゝをよはんことはいかてあやまたしとつゝしみて心のうちはひしりにおとり侍らぬ物をましていとはかなきことにつけてしもをもきつみうへきことはなにとてかお

もひたまへんさらにあるましき事に侍りうたかひおほすましたゝいとおしきおやの思ひなとをきゝあきらめはへらむはかりなんうれしう心やすかるへきなとむかしよりふかゝりしかたの心はえをかたり給そうつもけにとうなつきていとゝたうときことなときこえ給ほとにひもくれぬれは中やとりもいとよかりぬへけれとうはのそらにてものしたらむこそなをひなかるへけれとおもひわつらひてかへりたまふにこのせうとのわらはをそうつめとめてほめたまふこれにつけてまつほのめかし給へときこえ給へはふみかきてとらせ給時　くは山におはしてあそひ給へよとすゝろなるやうにはおほすましきゆへもありけりとうちかたらひ給このこは心もえねとふみとりて御ともにいつさかもとになれは御せんの人　くすこしたちあかれてしのひやかにをとの給をのにはいとふかくしけりたるあをはのやまにむかひてまきるゝことなくやりみつのほたるはかりをむかしおほゆるなくさめにてなかめゐ給へるにれいのはるかにみやらるゝたにのゝきはよりさき心ことにをひていとおほくともしたる火のゝとかならぬひかりをみるとてあまきみたちもはしにいてゐたりたかおはするにかあらん御せんなといとおほくこそみゆれひるあなたにひきほしたてまつれたりつるかへり事に大将殿おはしましておほんあるしのことにはかにするをいとよきおりとこそありつれ大将殿とはこの女二の宮の御をとこにやおはしつらむなといふもいとこのよとほくゐ中ひにたりやまことにさにやあらん時　くかゝる山ちわけおはせしときいとしるかりしすいしんのこゐもうちつけにましりてきこゆる月日のすきゆくまゝにむかしのことのかくおもひわすれぬもいまはなにゝすへきことそと心うけれはあみたほとけにおもひまきらはしていとゝものもいはてゐたりよかはにかよふ人のみなんこのわたりにはちかきたよりなりけるかの殿はこのこをやかてやらむとおほしけれと人めおほくてひんなけれは殿にかへり給て又のひことさらにそいたしたて給むつましくおほす人のこと　くしからぬ二三人をくりにてむかしもつねにつかはしゝすいしんそへたまへり人きかぬまによひよせ給てあこかうせにしいもうとのかほはおほゆやいまはよになき人とおもひはてにしをいとたしかにこそものし給なれうとき人にはきかせしとおもふをいきてたつねよはゝにいまたしきにいふな中　くおとろきさはかんほとにしるましき人もしりなんそのおやのみ思のいとおしさにこそかくもたつぬれとまたきにいとくちかため給をおさなき心ちにもはらからはおほかれとこのきみのかたちをはにるものなしとおもひしみたりしにうせ給にけりときゝていとかなしとおもひわたるにかくのたまへはうれしきにもなみたのおつるをはつかしとおもひてを

ゝとあらゝかにきこえゐたりかしこにはまたつとめてそうつの御もとより夜部
大将とのゝ御つかひにてこきみやまうて給へりしことの心うけたまはりしにあ
ちきなくかへりておくし侍てなとひめ君にきこえ給へみつからきこえさすへき
こともおほかれとけふあすゝくしてさふらふへしとかき給へりこれはなに事そ
とあま君おとろきてこなたへもわたりてみせたてまつり給へはおもてうちあか
みて物のきこえのあるにやとくるしう物かくしゝけるとうらみられんをおもひ
つゝくるにいらへんかたなくてゐたまへるに猶のたまはせよ心うくおほしへた
つる事といみしくうらみてことの心をしらねはあわたゝしきまておもひたるほ
とにやまよりそうつの御せうそこにてまいりたる人なんあるといひいれたりあ
やしけれとこれこそはさはたしかなる御せうそこならめとてこなたにといはせ
たれはいときよけにしなやかなるわらはのえならすさうそきたるそあゆみきた
るわらうたさしいてたれはすたれのもとについゐてかやうにてはさふらふまし
くこそはそうつはの給しかといへはあまきみそいらへなとし給ふみとりいれて
みれはにうたうのひめきみの御かたにやまよりとてなかき給へりあらしなとあ
らかふへきやうもなしいとはしたなくおほえていよ　くひきいられて人にかほ
もみあはせすつねにほこりかならす物したまふ人からなれといとうたて心うし
なといひてそうつの御文みれはけさこゝに大将殿のものし給ておほんありさま
たつねとひ給はしめよりありしやうくはしくきこえ侍ぬおほん心さしふかかり
ける御中をそむきてあやしき山かつの中に出家し給へることかへりては仏のせ
めそふへきことなるをなんうけ給はりおとろき侍いかゝはせんもとの御ちきり
あやまちたまはてあいしふのつみをはるかしきこえ給て一日のすけのくとくは
ゝかりなき物なれは猶たのませたまへとなんこと　くには身つからさふらひて
申侍らんかつ　くこのこきみきこえ給てんとかきたりまかうへうもあらすかき
あきらめ給へれとこと人は心もえすこのきみはたれにかおはすらんなをいと心
うしいまさへかくあなかちにへたてさせ給とせめられてすこしとさまにむきて
みたまへはこのこはいまはとよをおもひなりしゆふくれにいまこひしとおもひ
し人なりけりおなし所にてみしほとはいとさかなくあやにくにおこりてにくか
りしかとはゝのいとかなしくして宇治にも時　くゐておはせしかはすこしおよ
すけしまゝにかたみにおもへりしわらは心をおもひいつるにゆめのやうなりま
つはゝのありさまいとゝはまほしくこと人　くのうへはをのつからきけとおや
のおはすらんやうはほのかにもえきかすかしと中　くこれをみるにいとかなし
くてほろ　くとなかれぬいとおかしけにてすこしうちおほえたまへる心ちもす

れはおほんはらからにこそおはすめれきこえまほしくおほす事もあらんうちにいれたてまつらんといふをなにかいまは世にある物ともおもはさらんにあやしきさまにおもかはりしてふとみえんもはつかしとおもへはとはかりためらひてけにへたてありとおほしなすらむかくるしさに物もいはれてなんあさましかりけんありさまはめつらかなることゝみ給てけんをさてうつし心もうせたましひなといふらん物もあらぬさまになりにけるにやあらんいかにも　くすきにしかたのことを我なからさらにえおもひいてぬにきのかみとかありし人の世の物かたりすめりし中になんみしあたりのことにやとほのかにおもひいてらるゝことある心ちせしそのゝちとさまかうさまにおもひつゝくれとさらにはか　くしくもおほえぬにたゝひとりものしたまへし人のいかてとをろかならすおもひためりしをまたやよにおはすらむとそれはかりなん心にはなれすかなしきおり　く侍にけふみれはこのわらはのかほはちゐさくてみし心ちするにもいとしのひかたけれといまさらにかゝる人にもありとはしられてやみなんとなん思侍かの人もしよにものしたまはゝそれひとりになんたいめんせまほしくおもひ侍このそうつのゝ給へる人なとにはさらにしられたてまつらしとこそおもひはへれかまへてひかことなりけりときこえなしてもてかくし給へとのたまへはいとかたきことかなそうつの御心はひしりといふなかにもあまりくまなくものしたまへはいまさらにのこいてはきこえたまひてんやのちにかくれあらしなのめにかろ

　くしき御ほとにもおはしまさすなといひさはきてよにしらす心つよくおはしますこそとみないひあはせてもやのきはにき丁たてゝいれたりこのこもさはきゝつれとおさなけれはふといひよらんもつゝましけれと又侍御文いかてたてまつらんそうつの御しるへはたしかなるをかくおほつかなく侍こそとふしめにていへはそゝやあなうつくしなといひて御文御らんすへき人はたゝにものせさせ給めりけさうの人なんいかなることにかと心えかたく侍を猶のたまはせよおさなき御ほとなれとかゝる御しるへにたのみきこえ給やうもあらんなといへはおほしへたててておほ　くしくもてなさせ給にはなにことをかきこえ侍らむうとくおほしなりにけれはきこゆへきことも侍らすたゝこの御文を人つてならてたてまつれとて侍つるいかてたてまつらんといへはいとことはりなり猶いとかくうたておはせそさすかにむくつけき御心にこそときこえうこかしてき丁のもとにをしよせたてまつりたれはわれにもあらてゐたまへるけはひこと人にははにぬ心ちすれはそこもとによりてたてまつりつ御返とく給てまいりなんとかくうと

　くしきを心うしと思ていそくあま君御ふみひきときてみせたてまつるありし

なからの御てにてかみのかなとれいのよつかぬまてしみたりほのかにみてれいの物めてのさしすき人いとありかたくおかしとおもふへしさらにきこえんかたなくさま　くにつみをもき御心をはそうつにおもひゆるしきこえていまはいかてかあさましかりしよの夢かたりをたにといそかるゝ心のわれなからもとかしきになんましてひとめはいかにとかきもやり給はす

　　のりのしとたつぬるみちをしるへにておもはぬやまにふみまとふかなこの人はみやわすれたまひぬらむこゝにはゆくゑなき御かたみにみる物にてなんなといとこまやかなりかくつふつふとかきたまへるさまのまきらはさんかたなきにさりとてそのひとにもあらぬさまをおもひのほかにみつけられきこえたらむほとのはしたなさなとをおもひみたれていとゝはれ　くしからぬ心はいひやるへきかたもなしさすかにうちなきてひれふしたまへれはいとよつかぬ御ありさまかなとみわつらひぬいかゝきこえんなとせめられて心ちのかきみたるやうにし侍ほとためらひていまきこえんむかしのことおもひいつれとさらにおほゆることもなくあやしくいかなりけるゆめにかとのみ心もえすなんすこしゝつまりてやこの御ふみなともみしらるゝ事もあらむけふはなをもてまいりたまひねところたかへにもあらむにいとかたはらいたかるへしとてひろけなからあまきみにさしやりたまへれはいとみくるしき御事かなあまりけしからぬはみたてまつる人もつみさりところなかるへしなといひさはくもうたてきゝにくゝおほゆれはかほもひきいれてふしたまへりあるしそのこきみに物かたりすこしきこえてものゝけにやおはすらんれいのさまにみえ給おりなくなやみわたり給て御かたちもことになり給へるをたつねきこえ給人あらはいとわつらはしかるへきことゝみたてまつりなけき侍しもしるくかくいとあはれに心くるしき御ことゝもの侍けるをいまなんいとかたしけなく思ひ侍ひころもうちはへなやませ給めるをいとゝかゝることゝもにおほしみたるゝにやつねよりも物おほえさせ給はぬさまにてなんときこゆところにつけておかしきあるしなとしたれとおさなき心ちはそこはかとなくあはてたる心ちしてわさとたてまつれさせ給へるしるしになにことをかはきこえさせんとすらむたゝひとことをのたまはせよかしなといへはけになといひてかくなむとうつしかたれともゝのもの給はねはかひなくてたゝかくおほつかなき御ありさまをきこえさせ給へきなめりくものはるかにへたゝらぬほとにも侍めるをやまかせふくとも又もかならすたちよらせ給なんかしといへはすゝろにゐくらさむもあやしかるへけれはかへりなんとす人しれすゆかしき御ありさまをもえみすなりぬるをおほつかなくゝちをしくて心ゆかすなからまいりぬいつしかとまちおはするにかくたと　くしくてかへりきたれはすさましく中　くなりとおほすことさま　くにて人のかくしすへたるにやあらんと我御心のおもひよらぬくまなくおとしをきたまへりしならひにとそ